

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3191600026	
法人名	社会福祉法人 日南福祉会	
事業所名	グループホーム 虹の郷 東ユニット	
所在地	鳥取県日野郡日南町生山346番地1	
自己評価作成日	平成29年3月8日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/31/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kami=true&amp;JigyosyoCd=3191600026-00&amp;PrefCd=31&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/31/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kami=true&amp;JigyosyoCd=3191600026-00&amp;PrefCd=31&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社保健情報サービス
所在地	鳥取県米子市米原2-7-7
訪問調査日	平成29年3月17日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

川のせせらぎ、鳥のさえずり、時にはイノシシの訪問あり。そんなのどかな環境の中で一緒に過ごす職員は時には子供、時には嫁になり、ご利用者様同士は近所の親しい友人にはなったり兄弟になったりし、一つの家族としてのんびりゆったり暮らしています。家族的な雰囲気を出す為に、毎日入浴を実施し食事のメニューは山の幸畑の幸をどんどん取り入れたメニューを提供しています。是非一度お越しください。笑顔と笑い声があふれるところです。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな日南町の山あいにはホームは立っており、認知症対応型デイサービスと併設となっています。消防署の隣と言う事も有り安全面も確保されています。協力医である日南病院も近距離にあり家族としても安心して預ける事が出来ています。近年コンビニや道の駅も近隣にでき、今後散歩がてら遊びに行けるよう計画をされています。  
ホームで畑も作られており、季節ごとの収穫もあります。利用者も収穫物を使つての献立を考えられたり、買物一緒に行かれたりと役割も多く持って頂かれています。  
利用者のペースに合わせた日課が組まれ、利用者も表情豊かに暮らしておられました。職員も利用者一人ひとりの気持ちに立ち、何が最善の支援であるか考えながら日々のケアにあたられています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月一回の会議時に理念の復唱を全員で行い、ユニットに理念を掲げ職員の目にふれるようにし意識し日々のケアに活かしていく様心がけている	各ユニットに理念が掲示されており、職員は意識を持って日々のケアにあたられています。月に1度の職員会議の折には理念を全職員で復唱され、共有されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町の文化祭へ参加し地域の祭りにも出かける様になっている。定期的なボランティアも受け入れをしている。又長期計画として道の駅への散歩を実施中。認知症家族の会への事業所の夏祭りの参加の呼びかけをチラシなどで行った。	ホームを中心に地域との関わりは活発に行われています。地域の祭りに出掛けたり、町のふるさと祭には作品を展示してもらわれたりされています。地域の方によるボランティアも多様で定期的に訪問があります。近隣にコンビニや道の駅ができ、利用者の外出の楽しみも増え計画をされています。事業所の夏祭り際には認知症家族の会に声を掛けておられます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に向けて発信する事はないが運営推進会議の中で包括から認知症へのアプローチとして聞き取りがあり私たちの支援の方法を話すことがある		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回の運営推進会議で参加者の方々と地域で話されている事の情報や入居情報等の情報交換を行い新しい情報等を得てサービスの向上に努めている	地域住民、民生委員、地域包括、家族、利用者、常務理事、職員で構成されたメンバーで2ヶ月に1回開催されています。ホーム運営状況、活動状況や利用者の方の状況等を報告し、委員の方より、意見や情報を頂き、より良いサービス提供を目指しておられます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括ケア会議が月1回行われており、各機関からの参加があり情報を交換・研修が実施されている	毎月1回開催される町の地域包括ケア会議にも参加されています。参加機関との情報交換や研修が行われており、町担当課と連携を図りながら、情報提供等頂いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の会議で身体拘束チェック表に基づき確認をしている。職員全体で「身体拘束しないケア」に取り組んでいる	毎月のユニット会議の折に独自の身体拘束・虐待チェック表を使用して確認され、身体拘束をしないケアについて確認し取りまられています。スピーチロックについても意識されており気を付けておられます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回「高齢者虐待防止」の研修に職員全員が参加し知識の再確認と防止に努めている。また、チェック表に基づき確認をしている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されるご利用者様があり協力体制を取らせて頂いている。勉強会は出来ていない。今後知識取得の為に研修予定		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には自施設のケアに関する取り組みや考え方等、丁寧に説明し納得して頂いている。退居後の方向性、家族、関係者と十分話し合い、不安にならないよう対応している。リスクや重度化、看取りについての対応は詳しく説明し同意を得るようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置し、頂いた意見は玄関に貼り出し又は広報に掲載し外部へ表している。職員間ではその都度会議で意見について話し合っている。家族アンケートを実施し改善に努めた	意見箱の設置や家族アンケートを実施し意見、要望等を聞いていおられ、頂いた意見、要望等についてはホーム内に掲示したり、広報で対応されています。家族の方には面会時に意見、要望等を聞くようにされており、面会の少ない家族の方には毎月の便り等で利用者の様子を伝え、電話等により意見、要望等を聞くようにされています。	家族の方の希望を聞き、電子メールでの連絡も検討されても良いと思います。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議で職員の意見・要望・提案を出し合い、どうすれば実施できるか業務改善として取り組んでいる。	毎月のユニット会議に於いて職員の話し合いの場が持たれ、意見や提案等が出され、検討も行われます。個別面談も実施されており、個人的な意見、要望等を伝える機会もあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理職の面接により各自の希望を伝えられている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルに応じた研修を法人内外で行っておりH27年度よりキャリア段位制度を導入し職員の資質向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のGHと重度者に対するケアについて話し合いの場を設けた		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面接を行い本人の生活状態や本人の「思い」「心配な事」をお聞きしその情報を職員全体で共有している。又希望時には入居前見学をしていただき希望等を伺い安心につなげている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込み頂いた時に施設内の説明と見学を行いその際不安な事や要望等をお伺いしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人や家族の思いを確認しながら支援の内容の提供や相談を繰り返しながら必要なサービスにつなげるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と一緒に調理や手仕事をする時には入居者が主体となるように工夫し職員が学ぶ場面もある。又お互いに支え合う関係となるよう努力している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠方におられるご家族が帰省された時には外泊をすすめたり生活が分かりやすい様にお便りやスナップ写真を送らせて頂いている。又家族の面会時には近況報告等を行い情報を密にしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の面会がよくある方にはいつでも来て頂けるように環境を整えている。又人の集まる催し物会場(ふる里祭り等)へは出かけて行き地域の方々に会える機会を設けている	家族や友人・知人の面会時にはゆっくりと過ごして頂けるよう環境を整えています。誕生日には利用者の希望聞き馴染みの場所に出掛けられる方もあります。ふるさと祭り等の地域行事に出掛け、馴染みの人と会う機会も提供されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一日の生活の中で団らん出来る場面を増やし職員が間に入り取り持つ事もある。日課(掃除、洗濯干し、たたみ)合同で出来る作品作りなど体操レクリエーションをして頂く事で利用者同士が関わりあい支え合えるように支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ行かれても面会に出掛けている。定期的な交流はしていないが、必要時情報を提供する事にしている。契約終了後も気軽に立ち寄り下さるように話をしており、来てもらっている。アルバムを作成し渡している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを通して思いや希望を把握し日々のご利用者様とのコミュニケーションの中で日々の事や月1回のユニット会議の中で職員の気づきやご本人の願いに添えるよう心掛けている	アセスメントより、過去の生活歴や趣味、好みの物等を把握し、日々の利用者との会話の中で聞くようにされています。月に1回のユニット会議時に、個々の利用者の意向や要望が話し合われています。	利用者の生きがいや目標となるように気を付けながら、日々のコミュニケーションの中から引き出すようにされると良いと思います。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前のアセスメントで情報を得、気づきや会話の中で引き出し又ご本人やご家族、関係者から面会や面談時に聞き取りを行い情報を膨らませている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを大切に、その日の状態に合わせて一日の過ごし方を変更して頂いている。出来る事への気づきも共有できるよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族は面会時に希望や思いを伺うように努めている。3か月に1回のモニタリングだけでなく月1回のユニット会議の中でささいな事でも気づき、変化を出し合い共通理解をする。ユニット会議でのモニタリングは個人ファイルに記録する	本人や家族に意見、要望等を聞くようにされ、介護職員、看護職員等で話し合わせ介護計画は作成されています。基本的には、3ヶ月に1回モニタリング、6ヶ月に1回評価、見直しが行われます。急変等があれば随時検討されます。また、月1回のユニット会議でもカンファレンスが行われ、小さな変化も職員全体で共有しながら支援にあたられています。その内容について個人ファイルに記録するようにされています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の中で変化や気づき、統一すべき手順は個人ファイルや連絡ノートに記入している。食事量・水分量・排泄・バイタル等の記録はチェック表を作成し分かりやすい様に心がけている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて通院の支援を柔軟に行い必要に応じ専門職等より対応してもらっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町文化祭に自主作品及び合同作品(職員が作品の提案を行い、ご利用者様に作品作りに参加して頂く)の出展をしている このような場を設ける事が出来るよう行政の支援を受けている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医の確認、緊急時の対応についての確認を行っている。その時の状態で受診・往診の対応をしその結果をご家族に報告している(家族が同行不可能な場合には職員が代行している)意向確認は記録に残している	利用開始時にかかりつけ医や緊急時の対応について確認されています。殆どの利用者が協力医をかかりつけ医とされており、状況に応じて、往診、受診の対応が行われています。結果についても家族に報告されます。歯科は受診されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康管理や医療活用の支援を看護師が行っている。介護職員は小さな気づきもきちんと伝え協力病院との連携を図っている(24時間相談する事が可能で介護職員の記録を基に確実な連携も取れ夜間帯の協力も得ている)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医師と話しをする機会を設け、グループホームで対応出来る段階で退院出来るように協力してもらっている。常に情報交換を行い良い関係作りに努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り指針は定めているが現在対象者はなし。重度化した場合は今後について主治医・ご家族としっかり納得のいくまで話し合いをしている。その後職員間で今後に向けて何が出来るか個人との関わりを含め共通理解し介護に当たっている	終末期のあり方については看取り指針も用意されており、利用者、家族には利用開始時に説明されます。その後重度化してきた段階で再度、主治医も交えその後の意向を確認されます。その後関わり方について共通認識を持てる様職員間でも話し合い、が持たれます。エンゼルケアの研修も行われました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防士による救命救急訓練を受けたり緊急時のマニュアルを作成し対応できるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	総合訓練は年2回行っている。地元の消防団と防災協定を交わしている。昨年度よりグループホーム職員が消防学校へ夜間防災訓練に参加している	総合訓練は年2回行われています。うち一回は、隣接する消防署の方に立会いをして頂かれました。地元の消防団とも消防協定を交わされています。昨年度より西部広域の消防学校に出向き夜間防災訓練の研修に職員が参加しておられます。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ユニット会議の中で「身体拘束・虐待」のチェックシートを活用し言動のチェックをしている。又日々のケアの中で不適切な言動があればお互いに気づいた時に注意出来るようにしている	毎月のユニット会議の折に独自の身体拘束・虐待チェック表を使用して言動についての確認が行われています。日々のケアの中で不適切な言動があればお互いに注意するよう気を付けておられます。職員はさりげなく、優しい口調で声掛けされていました。プライバシー確保の為、同性介助にも対応されます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶の時間にはご利用者様に飲み物の希望を伺い(現物を見てもらったり)自己決定をして頂いている。お茶の時間はゆっくりと他愛のない話しをしながら一緒にお茶をしその中でアンテナを伸ばしながら望みや希望を把握出来るようにしている	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝ならいつもの時間に起きられないご利用者様とか自室で食事が摂りたいとかご本人の希望やその日の個々の状態に合わせ、1日をどう過ごしたいのか意向に添って過ごせるように配慮した見守りをしている	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	アセスメントの中で把握した事を実施し毎朝声掛けを行い整容を支援している。使い慣れた化粧品やクリームが継続して使用できるよう支援している。入浴時の着替えもご本人の好みを伺いながら用意している	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の食べたいものを献立に入れたりホームで収穫した野菜を食べたりしている。食事の準備の出来る方には一緒に参加してもらいながら野菜の皮むきや盛り付け等をして頂いている。又食欲のない方に別メニューを用意したりしている	ホームの畑で収穫した野菜や頂き物などを活かしながら、利用者の方の好みも取り入れながら献立は作成されます。食事の準備や片付け等出来る方にはお手伝い頂かれます。食事は3食手作りで、職員と利用者が一緒にテーブルにつき、季節の話等、楽しい雰囲気の中食事を楽しんでいます。行事食や誕生日の利用者の希望を取り入れた誕生日メニューも用意され、楽しみになっています。定期的に手作りおやつも楽しめます。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普段から飲み物の好みや量を全員が把握し水分量のチェックを行っており不足の日には夜間帯や合間に提供して飲んで頂くように努めている。献立は管理栄養士の指導を得ている	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人一人の持つ能力に応じて声掛けをし出来るところは努力して頂き、ご本人に合った口腔ケア用品で支援している。必要に応じて歯科受診を行っている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の活用はもとより失敗の多いご利用者様はスムーズに行って頂ける様声掛けの工夫をしている。又ご自分で交換出来るよう環境を整備している	排泄チェック表を活用し、声掛けされたり、定期的なトイレ誘導、個々に応じた支援が行われています。極力トイレでの排泄を継続して頂きながら、利用者自身で着替え等ができるよう環境を整えられています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘時はすぐに薬に頼らず毎朝ヨーグルトとハチミツを食べて頂いている。牛乳とバナナジュースや水分量の確認、運動を促すことで自然排便へつなげている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴が出来るようにしている。その日の希望時間を伺い入浴して頂いている(同性介助に配慮)夜間入浴はしていないが入居時に希望の時間を聞いている	利用者の方の希望に叶うよう支援されており、毎日入浴なさる方もおられます。午前午後も選択できます。同性介助も対応されます。重度化された利用者の方には、2名介助で対応されます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動を中心とした声掛けで適度の運動が出来るよう配慮し生活リズムを作り夜間安眠出来るように努めている。体調を配慮しながら支援している。天気の良い日には水虫予防に裸足になってもらい足の日光浴を行っている。足浴も行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個人ファイルに綴り変更時にはその都度差し替え職員全員が処方の内容を把握出来るようにしている 誤薬の危険性について全員が正しい理解をするように努め服薬マニュアルに添って実施している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の能力を活かせる場面を作り一人一人が楽しみながら役割を持てるよう普段から関わりを大切に支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日にはドライブ外出散歩等に出掛けている。身体的に重度になり出かける事を嫌がられる方もおられ支援方法に苦慮しているが誕生日にご本人だけの希望が叶えられる外出も支援している	天候の良い日には散歩に出掛けられたり、ホーム前の駐車場にて体操や、ベンチに座っての気分転換と季節感を感じて頂けるようにされています。食材の買物時に一緒にドライブがてら出掛けられる方もあります。近隣にコンビニ、道の駅もでき、歩いて行けるよう計画もされています。誕生日には本人の希望を聞き外出を計画される事も有ります。また、行事とうで出掛ける事も有ります。身体的に重度の方が増えてきており、外出もしにくくなってきています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その人の能力、希望に応じて管理を分けている。又使用される事がなくても自分のお金を持っておられる方もある。外出時は自分で支払いをしてもらえる支援をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて手紙や電話が出来るように支援している。家族より送り物が届いたら電話でお礼を伝えている。夏祭りへの案内状を作成し送っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	暗くならないようにカーテン、自然光を取り入れるように心掛け共用の場所には季節の花を飾り会話のきっかけにし居心地良く過ごせるよう工夫している	季節の草花や飾り物を取り入れながら、季節感を感じながら、温度や明かりの調整も行いながら、快適に過ごして頂けるよう工夫されています。利用者一人ひとりが落ち着いて過ごせるようソファ等を置きつろげるスペースも用意されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニットの奥の窓側にゆっくり一人で過ごせるスペースが用意してある。思いのまま利用出来るよう配慮してある。リビングにはゆったり過ごせるソファコーナーや和室には足を下ろしてくつろげるコタツを設けている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族やご本人の許可を得て写真や小物を飾る事で生活に安らぎと潤いが持てるように工夫している。関心を持って頂けない場合があるがご本人に承諾して頂き飾っている	自宅での生活に近い環境で過ごして頂けるよう自宅で使用していた馴染みの小物や家族の写真等を飾って頂いております。利用者の身体状況に応じた動線確保の為家具のレイアウトも検討されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴槽には手すりが設置してあるが、状態に応じて手すりを増設している。安全で自立した生活が出来るよう工夫している		